

## 地域自治消防団の出初式

-2007.1.6-

---

謹賀新年 昨年は大変お世話になりました。本年もよろしくお願い申し上げます。

全県的に今朝から大雪に見舞われている。今シーズン初めてのまとまった雪が到来した。重い雪で午後には雨のところが多かった。天気予報は全国的に明日まで大雪、嵐で荒れると言う。雪不足のスキー場にとって恵みの雪といえるが、急な雪で心と体の準備不足で大変だ。

さて、木曽郡内では6町村夫々で町村消防団出初式が始まる。今日は木祖村での出初式だった。雪吹雪の中での分列行進で、見ているほうも、傘なしコートを脱いで大変だった。

消防団は地域にとって絶対必要な組織であり地域の宝である。消防団が無しの地域の危機管理体制は考えられない。昨年7月の豪雨災害では木曽地域も被害があった。徹夜で見回りをした消防団は多い。土嚢を積んだり住民の非難の補助をしたり本当に大変だった。木曽地域は幸い被害は少なかったが、消防団の皆さんにはご苦勞様でしたと言いたい。

消防団は地域の防火・防災だけでなく若者たちの地域のコミュニティを果たしている。色々な年代層、職業を持つ若者が集まり年間約30日以上出動し汗を流して消防技術を習得する。また、地域の地理を始め、一軒一軒の子供から高齢者まで家族構成までも把握している。また、上下関係があり団員、副班長、班長、部長と年功上列で上がっていき、下の位の団員は上の言うことに従う。消防団は非常勤公務員の地位があり市町村条例に基づいて構成運営されている。45歳前後が退団年齢だが、40才を超えて消防団活動は肉体的にも辛くて大変だ。消防団を退団すると抜け殻になってしまう人がいると言うが、「消防命」と思っている団員も多い。

今、消防団は団員確保のために血眼になって探す但団員はなかなか見つからない。最近の若者は消防に魅力を感じないのだろうか。ただ、消防団員になりたくても勤め先や企業に事情で団員になれない人も多いと聞く。最近は女性団員や団の定年年齢を引き上げて組織作りをしているところも出てきた。

そこで、県や市町村は消防団活動に協力している企業に何らかの得点を与えるべきと思う。企業の目的は地域貢献できてこそ一流の企業といえる。

県職員は基本的に転勤で消防団に入れない事情がある。県の職員が1年でも2年でも転勤先で消防団に入れないものだろうか。工夫すればできると思う。職員が消防団に入って地域の人と交わり、地域の実情を知ることによって独自の地域施策が進むと思う。逆に県職員が地域事情を知るには消防団に入ることが近道になるのではないだろうか。

過去の私の県議会一般質問で県の職員が消防団に入団できる環境をつくる努力が必要と訴え、「何とかする」と危機管理室長は答弁した経緯がある。あの質問の答えは地域消防団に未だ何もない。